

補之輩、准_ニ拠格条、一身之後、為_ニ无主田二者、大納言正三位兼行左近衛大將藤原朝臣忠平宣、奉勅依_レ請、

(中略) ○三か条略。

一 応_レ定_ニ諸国地子交易絹綿調布商布鐵鍼等価數一事

(中略) ○伊勢以下一九か国略。

但馬国 絹四十疋 直三千四百束 足別六十束

(中略) ○因幡以下一五か国略。

右得_ニ同前解_ニ價、諸国物価各有_ニ差別、勘納之例、何

得_ニ一_ニ同_ニ、而承前之例、不_レ依_ニ國法、不_レ論_ニ貴賤、

定_ニ納絹一疋直稻五十束、綿一屯直五束、調布商布

鐵鍼等之無_ニ准的、凡物直高下、國例各異、何依_ニ一

例、為_ニ諸國法、加以件等物価、未_レ有_ニ所_レ拠、稽_ニ之

政途、似_レ无_ニ堤防、望請、因_ニ循年來所_レ進地子帳価

數、便_ニ為_ニ定法、但收_レ物之日、令_ニ主計官人、准_ニ定

価法、注_ニ載日收_ニ、有_ニ龜惡_ニ者、即減_ニ其直、自余雜

物、依_ニ同帳価、將_レ為_ニ勘定、若物直過_レ限并不_レ填_ニ

減直、同抱_ニ税帳者、同宣、奉_レ勅依_レ請、

以前条事、所_レ定如_ニ件、省宣_ニ承知、依_レ宣行_レ之、符

到奉行、

右中弁藤原朝臣(邦基)

左少史錦宿祢

二八 太政官符 延喜十四年八月十五日

(中略) ○別聚符宣抄

太政官符厨家

応_ニ勤行_ニ雜事五箇条事

(中略) ○二か条略。

一定_ニ諸国例進地子雜物一事

(中略) ○伊勢以下二十八か国略。

但馬国 絹卅疋 海藻大五十斤

(中略) ○因幡以下十七か国と大宰府略。

右同前解状價、檢_ニ案内_ニ一件雜物等、天安二年正月

廿九日官符、元慶三年十月十七日定文等、具定_ニ色

數、其後時々下_レ符、頗有_ニ改定、因_ニ之拠_ニ勘前後之

官符、定置所進之色數、望請、下知民部省、令_ニ

諸國司_ニ依_ニ件數_ニ進納_ニ、若有_ニ未進_ニ、依_レ式拘_ニ朝集調

庸稅帳等返抄_ニ者、同依宣_ニ、依_レ請、

(中略) ○二か條略。

以前条事、所_レ充如_レ件、厨家宜_ニ承知_ニ、依_レ宣行_ニ之、符致奉行、

右中弁藤原_(邦基)_{朝臣}

左大史酒井宿祢

延喜十四年八月十五日

左中弁藤原_(邦基)_{朝臣}

左大史菅野朝臣

延喜十九年九月廿六日

三〇 小右記 長徳二年五月十九日戊午条

高麗國人寄_ニ石見國事、
高麗國人寄_ニ右見國_ニ、其事諸卿定申、延喜年中異國人來_ニ但馬國_ニ、造_レ船給_レ糧還_ニ遣本國_ニ、依_ニ彼例_ニ給_レ糧_ニ返遣_ニ之由定申了、

三一 扶桑略記 卷二四 補書 延長八年正月廿日乙酉

渤海客船修造料、并若狭・但馬結番、以_ニ正稅_ニ可_レ饗_ニ同客_ニ也、

太政官符但馬国司

応_レ令_ニ前介從五位下大藏朝臣是明_ニ行_ニ國務_ニ事

右檢_ニ案内_ニ一件是明朝臣去七月十二月日遭_レ喪解任、新

司介從五位下橘朝臣方用依_ニ有_ニ身病_ニ、不_レ得_ニ早向_ニ、國

中雜事必多_ニ擁滯_ニ、右大臣_(藤原忠平)宣_ニ、奉_レ勅、_ニ未_ニ到_ニ

間、令_ニ是明朝臣_ニ行_ニ國務_ニ者、國宜_ニ承知_ニ、依_レ宣行_ニ、符到奉行、

○ここでは承平以後(九三一年以後)の史料をあつ
かっている。

4 摺らぐ律令制

三 九条年中行事 承平六年閏十一月一日

左大史尾張宿祢言鑑仰云、大弁平朝臣時望伝宣、右大

仲平宣、今月十九日新嘗会、親王公卿諸大夫已上禄、宣

藤原

以_二大宰府所進絹仟捌佰漆拾匹、但馬国所進佰參拾匹、大宰府綿捌仟漆佰式拾屯、出雲国式仟參佰屯等在下充行_二、但親王公卿等祿、宣_二以_二阿波国所進_一在下充行_二者、

承平六年閏十一月二日

少錄中臣国継奉

須_二見任量_二其要否_一、申_レ官修理_二、

承平七年判

三 本朝世紀 第四 天慶二年十二月廿一日丁巳

今日伊予国進_二解状_一、前掾藤純友去承平六年可_レ追_二捕海賊_二之由_二宣旨_一、而近來有_二相驚事_一、率_二隨兵等_一欲

レ出_二巨海_一、部内之騒_二、人民驚_二、之脫紀淑人朝臣雖_レ加_二制止_一不_二承引_一、早被_レ申_ニ上純友_一、鎮_ニ國郡之騒_二云々、可_レ召_ニ件純友_一官符等請_ニ内外印_一、下_ニ攝津_一・丹波_一・但馬_一・播磨_一・備前_一・備中_一・備後國等_一、

三 政事要略 卷五四 交替雜事 承平七年

勘解由使勘判抄

一器仗戎具事格文在_ニ神社條、

(中略) ○承平四年伊賀、承平七年伯耆の例を省略。

但馬 前司藤原師範

非常赦判云、无_レ実者、失由不_レ明、然而事經_ニ赦令_一、

昨日但馬国進_ニ上賊帥藤原文元_一・弟同文茂頭_二解文_一、右少弁菅原朝臣在躬率_レ史出_レ自_レ陣、於_ニ左衛門陣外_一開見_一、解文令持用即差_ニ官掌石作貞貫於宮内省西門外辺_一、使貞行也、奉_レ覽_ニ大納言藤原實賴卿_一、上卿即差_ニ在躬朝臣_一、被_レ奉_ニ太政大臣里第一也、

三三 太政官符

天慶六年十二月十七日

〔別聚符宣抄〕

太政官符山陰道諸国司

応早進封事一事

右公卿大夫及京官外国五位已上、職居官長、□明
 経、課試及第名為儒士之者、可上封事□去
 年三月十日詔、即同月十九日頒下已畢、□司等徒
 送年月于今未進、緩急之甚、責而有余、大納言
 正三位兼行右近衛大將陸奥出羽接察使藤原朝臣実賴宣
 奉勅、宜加下知早令上之者、諸國承知依宣
 行之、不得緩怠、符到奉行、

從五位上守權右少弁源朝臣俊 右大史正六位上船宿称夷平

天慶六年十二月十七日

三七 拾芥抄 中末 天慶八年九月二日

諸国参考第二十四件參期、天慶八年九月一日、
諸大外記、三統公忠勘申之、

伊賀中 伊勢上 尾張中 參河上 近江上

勘申伊勢・但馬・備後・伊予等国司言上不堪佃田過

三分之一罪状事

三六 政事要略 卷六〇 交替雜事 天曆二年十二月三日

已上十一箇國、十二月參、
(後略)

美濃中	飛驥無品	若狹中	越前中	丹波中
丹後中	但馬中	上總中	因幡中	播磨中
美作中	備前上	備中上	紀伊上	
已上十九箇國、	十月參、			

遠江中	駿河中	伊豆龜	甲斐同	信濃同
加賀中	能登中	越中中	伯耆中	出雲中
備後上	阿波上	讃岐中		
已上十三箇國、	十一月參、			
相模龜	武藏同	安房無品	上總龜	
常陸同	上野同	下野同	下總同	
周防不貢		石見不貢	安芸上	

合

伊勢国言上、田使勘返、千四百冊五町四段冊九歩、過三分之一、四百八十町一段二百十一步

加署国司守從四位下橘朝臣惟風

少目正六位上河内忌寸良兼

權少目從七位下尾張連忠連

右左大史海宿称業恒仰云、大弁源朝臣庶明伝宣、左大

(藤原)

(夷類)宣、奉レ勅、天慶九年件国々言上、不堪佃田使勘返、過十分之一、而至于租穀、不レ弁入官入私之由、

仍件国司等罪状、明法博士先日勘申状、雖レ引ニ罪条一

不レ申ニ結断、今使等租穀在ニ民身ニ之由、進ニ申文已了、

宜ド任ニ件申文、令ラ勘ニ申所當之罪ニ者、(中略)而諸国言

上損并不堪佃田、既不レ拠ニ其実、覆檢之日、勘返過多、

而頃年畜令レ填ニ勘返之物、都不レ行ニ科責之法、積習之

漸、欺詐為ニ宗、(中略)

以前、国々司等罪状勘申如レ件、

天暦二年十二月三日

一 古代の出石

從五位上守大判事兼行民部少輔明法博士惟宗朝臣公方

件勘文雖レ載ニ國々、事具ニ此条、仍不レ取ニ他条、

三元 藤原師輔讓狀

応和元年六月五日

「門葉記」卷一四〇 雜決一

妙香院

九条右丞相御讓狀云

(異筆)
〔奉レ送〕

庄園等拾老箇所事

(中略)

但馬國大浜庄

(城崎郡)

右依ニ御处分、副ニ公驗等、奉レ送ニ禪師君御坊、如レ件、

応和元年六月五日

中務少丞小野判

別当修理亮上毛野朝臣判

図書頭百濟王判

春宮大進藤原朝臣判

前令小野判

紀伊国三人五位二人

淡路国三人五位

天禄三年四月九日

○「門葉記」には、永祚二年二月十三日の「慈忍和尚御遺
誠」を引用して、但馬国大浜荘など四ヶ荘が官省符をす
でに受けていること、妙香院に施入する本意は、「偏不
レ充_ミ仏料、以_ミ件地子可_レ充_ミ院用並君達料」にあるこ
とを述べている。

一〇 親信卿記 天禄三年五月十日

〔持參位祿充文於大殿〕_(藤原伊尹)
五月十日、取了、參_ミ大殿_{一進}充文、申_ア有_ミ不_レ給人_一

之由、即仰云、年来必不_レ召、況件人々、不_ミ恪勤_一人等
也、直可_ミ下給_一者、承_レ仰、令_レ召_ミ忠節、依_ミ身病_一不
レ参者、奉_ミ彼所_レ弁右中弁佐理朝臣_一了、
_(藤原)

伊賀国一人五位

伊勢国二人四位一人

信濃国二人五位一人

丹後国二人五位一人

但馬国二人四位一人

一一 太政官符 永延三年二月二十五日

〔類聚符宣抄〕第八 任符
太政官符但馬国司

從七位上多治真人広光

右去年十二月廿五日任_ミ彼國博士_一畢、國宜_ミ承知_一至即
任用、路次之國亦宜_レ給_ミ食馬、符到奉行、
弁

史

永延二年二月廿五日

一二 扶桑略記 卷二七 長徳二年四月廿四日

一 古代の出石

○出雲權守に左遷された藤原隆家が、病氣を理由に但馬にとどめおかれたことは、『公卿補任』にもみえ、『榮花物語』卷五には、但馬国司が配慮好遇したことがみえる。

頭談説也、
生、此間費不可催追、奉道順朝臣早可追下者、
其請文可_ニ帰參者、又信順朝臣申_ニ病由、兼又万死一

伊周・隆家依_ニ病逗留事、
参内、右大將_(式部大輔)・左兵衛督・宰相中将參会、
權帥伊周・出雲權守隆家依_ニ病不_レ赴_ニ向配所之由、領
送使言上云々、頭弁行成云、權帥者病間安_ニ置播磨國
便所、出雲權守安_ニ置但馬國便所、各令_レ請_ニ國司、取_ニ

内大臣又到_ニ彼家、於是内大臣共人等射_ニ花山院御在
所_ニ仍事起_レ是矣、云々、
原隆家貶_ニ遷出雲權守、年十七、配_ニ流但馬國、件左遷
事、元者、去正月十六日、花山院移_ニ幸故恒德公之家、
(藤原為光)、
内大臣又到_ニ彼家、於是内大臣共人等射_ニ花山院御在
所_ニ仍事起_レ是矣、云々、

また『扶桑略記』長徳二年十月七日には、但馬から申文

を獻じて、無実を訴え宥免を乞う記事がある。

三 権記 長保元年十一月七日丙戌

紙五百帖、自_ニ藏人所_ニ召_ニ播磨・但馬・丹波・備中等
國、

三 権記 長保二年十月七日庚戌

平_(惟仲)中納_(藤原)差_ニ至道朝臣、被送_ニ勘造進大臣状
文_(即)奏_ニ中宮御產雜_(音)九日成_ニ所牒_(召)綱五十疋之内、三_(神力)召油_(音)
河・越前・但馬・大和・伊勢各十疋

三 江家次第 卷五 二月 位禄定 長保三年五月十三日

殿上

伊賀二人四位五位一人信濃二人四位五位一人丹後二人四位五位一人
但馬二人四位一人紀伊二人四位五位一人淡路三人五位

長保三年五月十三日

伊賀一人五位 紀伊二人五位 能登六人五位 越中五人五位
越後四人五位 丹後一人五位 但馬二人四位 一人

信乃二人四位 一人 淡路二人五位

右十箇国、女御・更衣・諸衛佐・馬寮助・諸道博士・二寮頭助・史等所_レ給也、

長保三年五月十三日

三七 権記 長保四年二月一日丁卯

(平生昌)
前但馬守來、志_ニ与櫛榔百把一、

三八 権記 長保四年三月十日丙午

(高階)
但馬守道順朝臣來、示_ニ明日下向、即与_ニ去年大和國申返不行權守位祿_ニ改_ニ給但馬國新委不動穀官符一通、
位下、為_レ令_レ下_ニ行其代_ニ也、

一四 小右記 長和二年九月二十一日庚戌

元 権記 寛弘四年十二月二十七日己未

參内、有_レ奏、左大臣内文、(藤原道長)内府被_レ仰云、(藤原公季)奉親宿祢許

令_レ「仰_ニ」(符カ)給諸国據_ニ及相撲人正忠_ニ等_ニ任_ニ但馬據_ニ任符

等可_ニ作上_ニ之由令_レ仰_ニ、而所_レ申非_レ例云々、廿八日仰_ニ此由於奉親_ニ

一四 衛門府糧料下用注文 寛弘七年十月三十日

「九条家本延喜式裏文書」(東京国立博物館藏)

(前略)

二斗七升二合、依_ニ宣旨_ニ藏人所御牒遣_ニ國々_ニ衛士料四、

藏人惟規仰
府生兼則奉

六升八合、丹後四日料 六升八合、但馬四日料

五升一合、播磨三日_ニ料 五升一合、紀伊三日料

三升四合、和泉二日料
(中略)

寛弘七年十月卅日 門部多治
○以下署名略

不レ候ニ行幸ニ官人等并御馬乗者、亦隨身紀元武不ニ参上ニ事等、仰ニ將監保信、各召問、無レ所レ避、可レ令レ進ニ過

状、但紀元武罷ニ下但馬国、于レ今無レ音、是父府生保方(紀)所レ為也、至ニ父保方、可レ令レ進ニ不レ参ニ会行幸ニ之過状、

又闕ニ怠公事ニ之者、不可レ預ニ府給物ニ之由、重召仰了、

先年起請也、至ニ元武ニ憐召取其身、可レ令レ候ニ府庫ニ

者、又留ニ永宣旨者也、不可ニ差遣、又鑒可レ停ニ射場所レ掌事等、同仰下了、將曹嘉数罷ニ下播磨国ニ不ニ参上ニ、

府生公(下毛野)奉隨身御車騎高向公方罷ニ下但馬国ニ非ニ自參ニ

會行幸、隨身御馬騎令ニ闕怠、彼日彼事罪科不レ輕者也、

○同年九月十六日、三条天皇が藤原道長の上東門第へ行幸されたが、隨身紀元武は父保方の命で但馬国に下向して

行幸に参会しなかった。関連記事は、同書、同年九月二十八日にもみえる。

一四 小右記

長和三年十月十七日庚午

今日、但馬守(源)國拳摸ニ法華經千部、令運ニ天台山ニ如ニ知

職職觸ニ上下ニ令ニ運上、近則昨日以ニ為信真人(清原)令レ申ニ事由ニ事依ニ功德、令レ仰ニ雜色所等、今日伊勢幣使立日也、如何、

一五 小右記

長和三年十月二十一日甲戌

昨日、但馬守國拳朝臣於ニ中堂ニ供ニ養千部法華經ニ之間、(延暦寺根本中堂)平等房焼亡、堂舍・仏像・經論・僧房尽焼亡云々、音楽如ニ形、依ニ火事ニ也、仏事不レ靜云々、

一四 小右記

長和四年四月九日戊午

進ニ禊祭未進勘文、前但馬守國拳臥(源)病出家、不レ進ニ禊祭兩面錦絹等、以ニ定賴(右中弁)令レ申ニ左相國(藤原道長)、又奉ニ未進勘文、

一四 小右記

長和四年四月九日戊午

○国司出家病臥による禊祭料物未進の前例を調べたことが同書の四月十日条に、改めて督促したことが同四月十一日条にみえる。四月十四日には、国拳法師が院使に明日所進すべきことを申ししたが、究進されたのは四月十九日

であったことが同書にみえる。

一 票 小右記 長和四年五月二日辛巳

『定遣相撲使事』^(紀)
定相撲使、召將曹正方、下給府生奉良・公頼等申

文、遣將等所、又將監扶宣依宣旨可レ遣伊与・讚岐・

淡路・阿波等事、又隨身近衛守近、可レ遣播磨・美

作・備前・備中事等示送也、(中略)入夜持未定文、

府生亮範定丹波・丹後・但馬、又守近定因幡・伯耆・

出雲・石見・公頼定播磨^(廢)・美作・備前・備中々將消

息云、府生亮範^(半イ)^(領)手來相顧之上、無頼殊甚、將隨身定遣

例也、其代定遣亮範也者、答云、亮範度々為相撲

使、已無其勤、每度逃相撲人者也、就中、去三月

依相撲人事進過狀、又官人事、被觸案内可レ被ニ

定遣、早公亮範^(止)可改公頼、々々使國々遣守近、

々々使國々者定遣隨身近衛尤宜歟、至亮範早可

止、又官人五人定遣事、惣不聞事也、定文返給了、

雖多事不具記、

二 票 小右記 長和四年五月三日壬午

早旦將曹正方云、中將雅通朝臣令申云、不レ申ニ事由、
以ニ府生亮範定丹波・丹後・但馬使、是大過怠也、
所ニ咎仰無所レ避、太多、府生公頼申^ア不レ可改ニ播磨
等使ニ之由、抑隨レ仰可ニ左右ニ也、亦八ニ守近可レ遣ニ山
陰道一道使歟、至亮範除定文了者、答云、公頼

身為ニ府生ニ、申ニ不レ可被ニ改由、更以ニ守近改ニ定其

國、可レ無ニ便宜、依ニ公頼之本望、去夕所ニ申達、而申

不レ可ニ改定ニ之状、有ニ何改定ニ乎、丹波等三個國使以ニ

中將隨身可ニ定遣ニ也、時剋推移、改書定文送之、公

頼如レ本、以ニ隨身守近定丹波・丹後・但馬・因幡等、

文以ニ被中將隨身定伯耆・出雲・石見、其消息云、必

不レ可ニ定遣隨身、然而有ニ仰事、於レ及ニ定他人^(改イ)又可

レ有レ所ニ思食、仍慄所ニ定遣、至ニ守近不レ可ニ改定ニ之

由雖レ有ニ仰事、因幡已下國々劣レ自ニ丹波等國々、仍丹

波等四ヶ國使所ニ改定ニ也、自隨身定ニ四個國使、以ニ守

近ニ定ニ充ニ三个国使、弥可レ有所レ恐、仍以ニ守近ニ為四
个国使、以ニ隨身三国吉高ニ定ニ三ヶ国使、

(後略)

四七 小右記

寛仁元年八月一日丙寅

丹後・但馬・丹波蝗虫蜂起、就レ中丹波国山野田畠如
レ赤云々、已及ニ三个郡ニ云々、

四八 左經記

治安元年七月十九日

今日攝津守頼光朝臣死去云々、

○大江山の鬼退治で有名な源頼光は、但馬守であったこと
がある。その時期は、寛弘八年八月二十三日以前である
ことだけしかわからないが(『權記』、「金葉和歌集」に
は、但馬守在任中、館の前に「けたがば」(円山川のこ
とか)が流れていって、その川舟が「たで」を刈つて下る
のをみて、相模母と連歌したことがみえる)。

四九 小右記 治安三年正月二十六日辛卯

又章信伝仰云、依ニ但馬國言上ニ去年給ニ追捕官符、而
(藤原)
(小一条院敦明)
院被奏云、蒙ニ追捕官符ニ之法師ム、令レ申ニ
(太)
(司カ)
レ実、暫被レ止ニ追捕ニ參上、被レ召サ申ニ郡解ニ郡□於官庁、
被レ對問、被レ決ニ虚実ニ者、給ニ宣旨、可ニ召上ニ者、即仰ニ
同弁ニ了、

五〇 小右記

治安三年四月十九日壬子

右中弁章信持ニ來宣旨、(但馬國郡七人令ニ參上)
(藤原)
國解文并院御庄司中文等、仰云、
下ニ給檢非違使序ニ可、令ニ定申ニ者、即下ニ給同弁ニ

○前号史料と連関する。国郡司七人は但馬御庄(朝来郡)
司惟朝法師を殺人の罪で訴えたが、事実が確認できずに、
惟朝法師は優免され、国司藤原実経(行成の子)も看督
不行届で釐務を停められ、郡司らは仮を給わった(休職)
ことが、同書の六月二日の記事までに記されている。

三 小右記

治安三年六月二日甲午

レ令奏聞也、

四 小右記

治安三年六月七日己亥

入レ夜左頭中將朝任下_ア給勸_ニ問惟朝法師・但馬郡司等_一
 日記・調度文書等_レ伝仰云、前日惟朝法師優免了、但
 馬国朝來郡農桑多勝_ニ他郡_ニ云々、而郡司等參上、定無_ニ
 其勤_ニ事在_ニ農節_ニ從_ニ輕法_ニ可_レ給_レ飯、亦國_ニ司罪料不_ニ
 輕_ニ、可_レ停_ニ釐務_ニ是亦輕法者、召_ニ遣右中弁章信_ニ即_ニ
 來、仰_ニ可_レ停_ニ但馬国司実經釐務_ニ事、郡司給_レ飯等事_ニ
 可_レ侍_ニ釐幣_ニ宣旨召_ニ大外記賴隆_ニ問_ニ先例_ニ申云、停任_ニ

可_レ給_ニ位祿_ニ之人々先日位祿所々、進文注付、召_ニ史恒_(天)
 則_ニ令_ニ下給_ニ内々令_ニ申云、師光朝臣充_ニ宜國_ニ与_ニ信濃_ニ
 国法_ニ者、問_ニ定死國_ニ、申_ニ慥不_ニ覺_ニ仰_ニ可_ニ改進_ニ了、若_ニ
 無_ニ殊勝劣_ニ者、問_ニ師光_ニ隨_ニ彼申_ニ可_ニ改_ニ定人_ニ之故也、
 信乃師光朝臣、但馬國經朝臣、紀伊永輔朝臣、

五 小右記

治安三年六月二十七日己未

播磨守_(藤原)惟憲來、言_ニ減省可_レ入_ニ奏之由、參内、宰相乘_ニ
 車尻_ニ先_ニ是右大弁定賴參入、問_ニ申文事_ニ、可_レ申_ニ丹波_ニ
 減省・播磨減省・美作重減省・白米減省・後不堪_ニ等_ニ
 者、仰_ニ可_レ令_ニ申由_ニ、左中弁重尹云、可_レ修_ニ造待賢門_ニ

用途文可_レ勘_ニ用途帳_ニ者、即下給、又仰云、待賢門瓦
 未_ニ葺_ニ了_ニ、以_ニ修理職_ニ可_レ令_ニ葺_ニ者、又仰下了、件門故但
 馬守_(藤原)則_ニ隆所_ニ造、而未_ニ葺_ニ了_ニ瓦_ニ之間其身卒者、仍所_ニ

六 小右記

治安三年六月五日丁酉

左中弁重尹伝仰云、權左中弁經賴申近江時造_ニ皇嘉門_ニ
 用途文可_レ勘_ニ用途帳_ニ者、即下給、又仰云、待賢門瓦
 未_ニ葺_ニ了_ニ、以_ニ修理職_ニ可_レ令_ニ葺_ニ者、又仰下了、件門故但
 馬守_(藤原)則_ニ隆所_ニ造、而未_ニ葺_ニ了_ニ瓦_ニ之間其身卒者、仍所_ニ

文、其儀如恒、（後略）

一至 小右記 治安三年七月三日乙丑

入夜左頭中将朝任來、（中略）亦伝仰云、（中略）□但馬守実經如元可レ令行ニ國務者、夜臨ニ深更、先且仰遣右中弁章信朝臣、明日面可レ仰由示□□、今日不^レ仰下、又大納言有^レ所^レ思歎、仍且仰遣了、報云、今夜可宣下、明日明^{（々カ）}日身慎殊重、隨又々不可^レ來者、○さきに但馬國務を止められた実經が復任した。

一至 小右記 治安三年七月十一日癸酉

山陰道相撲使隨身近衛信武參來、不^レ隨^ニ身相撲人、申云、追可^ニ參上^ニ者、

一至 小右記 万寿元年十一月二日丙戌

不堪申文、國々申交替使事問ニ大弁、々々云、皆具候参内、宰相乘^ニ車尻、先^レ是左大弁朝経參入、余着^ニ仗座、大弁從^ニ床子^ニ來着座、問ニ不堪申文事、云、具^ニ文書、

令候者、（中略）解給不堪文之緒、个国、先見^ニ目録、次見^ニ国々解文、尾張解文受領官不署、新司則理、未^ニ着任者、前司^{（藤原）}惟貞、須^{（侍）}侍^ニ新司參上、至レ今猶可^レ令^{（表カ）}加^ニ受領官署、事大略示^ニ大弁、（中略）但馬坪付帳、開発解文等使名相異、坪付帳使健兒池田利光者、「開発^{（行間補書）}文使健^{（カ）}」^{（表カ）}見池田利光者、一件解文等見畢、如^レ元結、卷^ニ紙表卷紙内^ニ給^レ史、置^ニ板義光給^レ之、開^ニ目録^ニ結申、^{（表カ）}余示^ニ大弁^ニ云、尾張解文者可^レ令^レ如^ニ受領官署、安房解文可^レ令^ニ直^ニ分子、但馬解文^ニ通使名相異、可^レ依^レ何乎、返給可^レ令^ニ改直、大弁称唯、其後仰^ニ申給へと、義光称唯、卷^レ書取^ニ副杖^ニ退出、次大弁起座、余起座退出、

之、大弁復座、余披見、了目_二大弁、々々進居、余給_二
件文、即結申、定仰、

二九 小右記 万寿元年十二月七日辛酉

但馬守_(藤原)実経志絹五十疋、不_レ示_ニ事由_ニ有_ニ此志、可_レ奇、

二〇 小右記 万寿元年十二月二十四日戊寅

左中弁_(源)經賴持_ニ來宣旨一枚、但馬国司申、彼因_ニ前例_ニ停_レ
受領官物數_ニ為_ニ定數_ニ、令_ニ遣_ニ檢交替使_ニ以_ニ故_ニ前司_ニ則_ニ隆_レ
前司同任官人分附_ニ事、令_ニ勘_ニ申前例_ニ下_ニ同弁、_(藤原)

但馬國修築南面大垣甚短云々、又上造極以異様、不似_ニ大垣_ニ云々、仍呼_ニ行事權左中弁_(藤原)章信_ニ仰_レ之、大外記賴隆云、昨又大納言行成卿仰_ニ但馬目代、罷向彼家_ニ所_ニ見給_ニ也者、

二一 小右記 万寿元年十二月二十八日壬午

今夜但馬僧經重師於枕上_ニ令_ニ念誦・讀經、此師顯密

相通、頗有_ニ驗德_ニ云々、來月朔日可_レ帰_レ國、小女祈願事語付了、於_ニ住國_ニ可_レ奉_ニ供_ニ養觀音、々々之像并供料明日可_レ送也、

二二 小右記 万寿二年十一月一日己卯

記進_ニ内文、(中略)左中弁下_ニ給宣旨_ニ一枚、但馬國司_(橘)則_ニ隆_レ不_レ造畢待賢_(門事依カ)請_ニ下_ニ左中弁、一枚因_ニ准前例_ニ停_レ檢交替使_ニ以_ニ故_ニ前司_ニ則_ニ隆_レ

昨日經重師云、下_ニ向但守_(州カ)、仍以_ニ貴重宿祢_ニ送_ニ觀音像

官人_ニ分付_ニ之_(事依請カ)先日下_ニ給_ニ依_ニ触_ニ交替使事更着_ニ南座_ニ下_ニ左大弁_ニ了、

并供料等、而俄被^レ留仁海僧都、至明年正月可^レ經^ニ廻洛中^一者、即奉^レ留^ニ仏像^一返^ニ送供料^一、至^レ今心閑可^レ奉^レ令^ニ供養^一、

二至 小右記 万寿二年十一月四日壬午

今日経重師猶帰^ニ但州^ニ之由去夕貴重朝臣所^レ申^一、且彼師返^ニ受先日布^一、於^ニ彼國^一、從^ニ三十六日^ニ奉^レ供^ニ觀音^ニ者、仍令^レ送了^一、

二癸 小右記 万寿二年十一月五日癸未

從^ニ今日^ニ限^ニ七個日^ニ以^ニ經重師^一奉^レ令^ニ供^ニ如意輪^一、但馬奉^レ供^ニ養秋^一、冬季藥師^一・請觀音等經^一、
成^ニ功事^(原)左中弁^ニ經^ニ頼持^ニ來但馬國^ニ司^ニ美經^一、申^ニ請造待賢門用途
物^ニ文^一、仰^ニ可^レ奏由^一、

二癸 小右記 万寿二年十一月二十九日丁未

左中弁^(源)經^ニ頼持^ニ來宣旨一枚^一、但馬國申造^ニ待賢門料物^一、下^ニ同弁^一、左頭中將公成來、下^ニ給宣旨^一、

(中略)

奉^ニ幣春日祭^一、發遣之後、念誦讀經如^ニ常^一、祭使少將行^(藤原)經遣^ニ招袴^一、但馬守^(藤原)實經志^ニ桑糸六十疋、五十疋奉料^一、此絹頗宜、不^レ似^ニ他國^一、似^レ有^ニ芳心^一、父大納言諷^(藤原行成)、是志以前歟、

二癸 小右記 万寿二年十一月十六日甲午

次令^レ分^ニ定國々申請文^一、左頭中將下^ニ給讃岐申延任文^一、須^ニ下^ニ給官底^一、令^ニ統^ニ文^一、而諸國申請皆是同事、統文在^ニ彼等^一、仍不^レ令^ニ勘統^ニ所^ニ定申^一也、定^ニ申^ニ五箇國事^一、但馬實經申造塔功^ニ二年延任^一、播^ニ方泰通申給復^一、安芸頼宣申延任^ニ二年、讃岐長経申延任^ニ二年、

(後略)

祈^ニ事^一小女当季聖天供始^一、延政^一、此度^一從^ニ今日^ニ三七個日^ニ於^ニ三井寺^(城寺)以^ニ阿闍梨千算^ニ奉^レ令^ニ供^ニ尊星王^一、聊有^ニ祈申事^一、

二〇 左經記 万寿二年十一月二十九日丁未
 晴、參_ニ結政所_一、有_レ政、上春宮、依_ニ閔白殿召_一、触_ニ召由
 於座中_ニ、以_ニ官掌_一、起_レ座入_レ内_一、及_ニ未刻_一、右府於_ニ左仗
 座_ニ、有_ニ当年不堪定_一、左大弁執筆_一、權大納言_一、源中納言_一
 藤中納言_一、右大弁皆是被_ニ預_ニ此定_一、但馬・讃岐・安芸・近_ニ及_ニ亥刻_一事
 次被_ニ定_一諸國申請事_一、江・伊与・播磨給復_一、及_ニ亥刻_一事
 了、各退出、

二一 小右記 万寿二年十二月十三日辛酉

明日官奏事(藤原定頼・藤原重尹)、右大弁請_レ仮云々、仍差_ニ史
 拳光(弁力)示_ニ遣兩大丞許_一、又余遣_ニ書狀左大弁_一、報云_ニ可_ニ
 参入者、但馬減省等可_レ入_レ奏事権大納言_一、三度示送、
(云力)報之_ニ、未_レ申_ニ上卿_一者、明日不_レ申_ニ南、於_レ陣可_レ令_レ申
 之由示報了、即有_ニ感悅之書、

二二 小右記 万寿二年十二月十四日壬戌

官奏事(中略) 可_レ入_ニ官奏_一文事問_ニ左大弁定頼、亦但
 参内(中略)

(後略)

馬・備前等文申_ニ南所_ニ者、可_レ入_ニ奏由仰_ニ大弁_一、左中弁
 経頼等云、両国文已申了者、權大納言參入、可_レ候_ニ奏
 事仰_ニ大弁_ニ了、余着_ニ南座_一、大弁着_ニ座_一、申云、奏、余
 挙_ニ、(中略)呼_ニ経頼_一仰_ニ内覽事_一、大弁起_レ座_一、此間閔白
 徒_ニ里第_ニ参入、禪闇被_ニ參云々、良久之経頼云、可_ニ早
 奏者、便令_ニ奏申_ニ、黃昏召_ニ、起_レ陣進_ニ御所_一、史行高
 捧_ニ書枚_枝相從、於_ニ射場廊_一執奏參上、跪_ニ年中行事御
 障子_ニ平頭_一、称唯、進_ニ御前_ニ奉_ニ文着_ニ丹座_一、(中略)余
 進給復_ニ座_一、解_ニ披表結緒_一、先結_ニ申國了_ニ申減省_一、後不
 堪等文_ニ、次結_ニ申不堪文_ニ、其_ニ詞_ニ云_ニ、其國々申當年_ニ
 結退下_ニ、經_ニ年中行事_ニ、於_ニ初所_ニ返_ニ給史_一、復_ニ陣坐_ニ着座_一
 史返_ニ進奏書_一、光賜_ニ表卷_一、次_ニ々取_ニ他文_ニ給置_ニ板敷
 端_ニ、仰云_ニ、申乃任_ニ、史称唯、後不堪_ニ者_ニ依可_ニ年跡_ニ遣使免三分之二_ニ、次下結_ニ權廻_ニ不堪文_ニ
 定_ニ給_ニ之、不_レ取_ニ手_一、史給_ニ披_ニ定文_一見_ニ之_ニ、仰云_ニ、依_ニ諸卿
 △行_ニ、称唯、了申_ニ成文_ニ、可_レ定申_ニ等數、
(文脱力)

- 二三 小右記 万寿二年十二月二十二日庚午
待賢門損色文事
左中弁経頼持_三來但馬国司申請待賢門損色文、示_ニ可_ニ
奏聞_一由_ニ直物案内相含畢、今日可_レ達者、
- 二四 類聚符宣抄 卷六 請印 万寿二年十二月二十九日
(藤原頼通)
左大臣宣、但馬国申請、治安二三・万寿元二并四箇年、
無直交易、年別綱伯玖拾捌疋、糸捌佰參拾肆絪、可_ニ免
除_ニ之官符、今日請印捺漏已_レ了、宣_ニ仰_ニ民部省、以_ニ白
紙官符_ニ且令_ニ堪_ニ会公文_ニ者、
- 万寿二年十二月廿九日
- 二五 小右記 万寿三年七月九日壬子
大外記兼主税權助助教伊予權介清原真人頼隆奉
- 二六 小右記 万寿四年正月十日壬子
馬料文、如_レ元推卷置_ニ板敷端_ニ給_レ之一々結申、裁_ニ仰詞_ニ
云々、(七)上文申給_ニ、
馬料文目、
(後略)
- 二七 小右記 万寿四年正月十日壬子
馬料勘_ニ守道朝臣_ニ令_ニ女事吉日_ニ勘_ニ來月廿三日甲午、時
亥_ニ件案内示_ニ遣定僧都_ニ了、
中將・但馬守能通相共定_ニ件日雜事、依_ニ吉日_ニ又内々
始_ニ行彼日事等、
- 二八 小右記 万寿四年六月十五日甲申
唐曆一部冊卷付_ニ但馬守能通使_ニ為_ニ書写_ニ所_ニ借請_ニ是
(藤原)
子実範料者、
- 二九 小右記 万寿四年七月十七日乙卯
山陰道相撲使番長為利隨_ニ身但馬相撲一人參來、相_ニ
(攝磨)
- 余着_ニ陣、呼_ニ大弁_ニ問_ニ申文事、申_ニ具候由_ニ大弁起_レ座
向_ニ陣腋、余着_ニ南座、次大弁着_レ座、敬屈云、申文、余
目掛、称唯見_ニ遣陣方、右大史信親刻_ニ申文於書杖_ニ候_ニ
(佐力)

具國々相撲可レ參由仰之、仍不レ見レ之、

一五 小右記 万寿四年八月一日戊辰

相撲人高平申文為資朝臣伝進申云、巨智時直住伊与國、大宅正忠住但馬國、真上為成住攝津国、是皆左相撲、給住国免田、高平住越中國、依時直等例給越中国免田者、可レ給牒由仰之、

一六 小右記 万寿四年八月十四日辛巳

(藤原経頼)左中弁持來宣旨、前但馬守実經申覆勘待賢一文、覆勘了所司署了、三河申請事、備前申請事、皆(藤原)周防申請事、皆加^二上達即下^二同弁、

一七 小右記 長元元年七月二十六日己未

(但馬国百姓呼言事)中將云(中略)又云、但馬百姓夜部於^二関白門外^二放呼聲了如^二一夜^二云々、其詞云、白昼愁申可^レ被^二致害^一、仍致夜愁歟、一切不可^レ被^レ用者也、関白所^レ被^レ存也、此事猶足^二驚奇^一、苛酷之間非^レ無云々、

本命供、頭弁中將伝^二下宣旨^一 (中略) 清談云、良円僧

綱、有^二事^一 (次) 云^二達闇白^一、被^レ答云、下官令^レ奏、何無^二 (藤原実質)

天許^二乎、又^二云、昨夜雜人十人許於^二関白西門外^一 同音

放^二呼言^一 申^二雜事^一、不^レ聞^二何事^一、次到^二堂門^一 同音呼、次

於^二南門^一 太猛放^二呼言^一、被^レ尋問^二晦^一跡分散、明尊僧都

房人云、但馬國^二姓^一言不^レ堪^二國司苛酷逃散之由、同音

叫呼、余^二 (云カ) 諸國百姓立^二公門^一 愁^二中國事^一 古今為^二例、

未^レ聞^二冒^一 四日^レ夜於^二呼言^一致訴事[、] 不^レ可^レ為^レ實、若有^二 (金者カ) 有^一

諸國民庶好^二夜愁歟、仮令雖^二良吏^一為^二敵^一 有^二方^一 有

一八 小右記 万寿四年九月二十六日癸亥

(藤原)但馬守能通^二來國解^一、以^二私物^一修^二造^一建^二禮門^一 東西垣[・]彼殿[・]陞[・]

一九 小右記 万寿五年七月二十四日丁巳

称^二但馬百姓^一令^レ放^二呼言^一、是俊孝朝臣所為云々、諸人

所レ申、俊孝近曾有ニ事縁ニ下ニ向但州、行ニ不善事、為レ國致ニ濫吹、國司在京之間云々、帰國之後追ニ上俊孝、譴責因縁之者、忽成ニ忿怨ニ俊孝所為云々、酒狂不善者也、家人也、而先年乗車渡ニ家門、為ニ下人ニ被レ打破面ニ耳、

一四 小右記 長元二年七月二十一日戊寅

山陰道使保武^(身人部)云、但馬相撲四人參來、仰ニ可レ遣レ府之由、不ニ召見、

一五 左経記 長元七年八月十九日丙子

天晴、午刻參内、右府侍從中納言被^(藤原実資)参入、相次宮内^(藤原資平)卿・右衛門督・左兵衛督參入、頭弁仰ニ右府ニ云、風損殿舎門廊堂等可レ分ニ充諸國、但諸司可レ作事如何、令ニ諸卿定申^(中略)次国充先被^(源経通)ニ損色文ニ通、諸司八省農業院^(源経通)僕執^レ筆、可ニ修造ニ風損所々事、(後略)

及ニ未剋ニ參内(中略)此次有ニ除目叙位等、此間出雲守俊孝申請、被^レ定ニ重任、并被^レ免ニ四箇年調庸租稅等、

兼給^(源経通)但馬國・伯耆等工夫、造立杵築社并其内宝殿

一六 行親記 長曆元年閏四月八日
○長元十年四月二十一日、長曆と改元。

有_三馬國定、可_レ勘_ニ國司罪名、少諸卿定申云、仍被_レ下_ニ宣旨、今日電鳴震降、人以恐懼、件國官人雜色人等、左少弁定親於_レ官令_ニ史致親勘問_レ云々、之日鳩飛_レ座_ニ云々、

一九 扶桑略記

卷二八
(長曆元年五月廿日)
後朱雀

前但馬守源則理配_ニ土佐國_ニ、刑部大輔相奉配_ニ流伊豆國_ニ、散位成流_ニ佐渡國_ニ、凡坐_レ吏者七人也、

一五 行親記

(長曆十年七月二日壬寅)

今日午二刻、今上_ニ宮有_ニ御元服事_ニ、(中略)折檻、近江・和泉・攝津・但馬・備前等守各以勤_ニ仕_ニ。

一六 春記

長曆二年十一月癸巳

即參_ニ闕白殿_ニ、而早御_ニ座白河殿_ニ已畢云々、仍參_ニ白河殿_ニ、申_ニ右府御復命_ニ、已有_ニ許容_ニ命云、明日參内可_レ奏_ニ此旨_ニ者、又命云、近日但馬國百姓群_ニ集公門_ニ申_ニ奏狀_ニ

云々、其申文可_レ被_ニ執奏_ニ之由、可_レ申_ニ右大臣_ニ者、予即退出_ニ、(中略)閔白被_レ申之事、申_ニ右府_ニ已畢、

一五 春記

長曆三年十月十日丁卯

明日木工允為經來談云、(中略)右府_ニ・皇后大夫_ニ・大和守義忠・但馬守基貞_ニ、可_レ獻_ニ五節舞姬_ニ之由、先内々被_ニ定仰_ニ了、至于定文_ニ、十日可_ニ定書_ニ之由云々、

○「采花物語」卷三によれば、頼宗の子基貞が但馬守になつたのは十六歳であつたという。

一五 春記

長曆三年十一月十四日辛丑

天霧、今夜四所五節參入_ニ、右大臣_ニ・皇后宮大夫_ニ・但馬守貞基_ニ・大和守義忠_ニ、

一五 春記

九条家本 長曆四年正月二十二日丁丑

退出人々丹波・但馬間有_レ論云々、章信_ニ・保家間云_ニ、(藤原)即參_ニ闕白殿_ニ、而早御_ニ座白河殿_ニ已畢云々、(藤原)但馬守貞基_ニ・大和守義忠_ニ、

一五 春記

九条家本 長曆四年正月二十四日己卯

天晴、終日候内、又候御前申承私事等、是又除目間事也、章信猶可任但馬、保家可任丹波之御氣色云々、保家任但馬更可無難□強申事不可然事也、

強縁之甚故也、不レ宜云々、右京大夫可闕歟、予奏云(藤原資房)、

可然者、欲任右京大夫是非寵進官、然而又何事

有哉、仰云、有闕者挾任何事之有哉者、予又以宮內

卿(藤原資房通)令申閑白已了、返事朝申了、已有許容者、章

信消息云、閑白被仰出、人々申文等目錄若注取哉、

然令欲見者、予即持參、依御物忌以章信令奉了、即退出、

到章信許、為樂慶賀事也、即相遇退出人々、保家丹波事不快云々、

一七 春記 長曆四年五月二日丙辰

即參閑白殿(中略)予申但馬守申文了、又參内奏

件文了、仰云、庄園事申可停止由、慥可停止之

事如何、(中略)予此次伝申仰旨、命云、諸國庄園事

可停止事、先日内々奏聞了、只被定仰之日、諸卿相定奏歟、其次慥可被仰下者也、

一八 春記 長曆四年五月二十四日戊寅

九条家本 長曆四年正月二十五日庚辰

天陰、入夜雨降、臨曉即止、除目入(眼也カ)、(中略)及翌日已時許除目之、公卿等開見大問如例、

受領

丹波保家得暫任
限下臘 但馬章信合格任

(中略)

參(藤原東齋)右府御方、被仰云、所勞頗雖得平愈、猶非尋

常、就中近日下痢發動、不レ知為方、仍所下給文書等可返上也、即給文書等了、讚岐・但馬・武藏・

常陸・美乃等也、未時許參閑白殿、依御物忌、令(藤原東齋通)伝申文等、仰云、早奏聞可下給内大臣也者、即

參内、一々奏聞了、仰云、早可下内大臣者、少時

參_ニ内府、奉_レ下_ニ件文書等了、廿八日可_レ令_レ申者、

(中略) 參内宿侍、藏人資成云、少將掌侍從者女、去夜

拷詐指申云、中將典侍相_レ尹從女所為也、具所_ニ見給_レ也、
至于自_ニ更不_ニ相犯_ニ者、仍被_レ責_ニ彼中將、是左衛門尉
頗資所_レ申也者、

一九 春記 長曆四年九月二十五日丁丑

五節可_レ獻之由、今日内々示_ニ資通_ニ津守_ニ保家丹波_ニ已了、
是依_ニ綸命_ニ也、但馬守章信志物等、長綱四疋、綿五屯、系十勾、
是先日差_ニ專使_ニ遣請_ニ也、今日到来太多少々々也、
依_ニ無_ニ其用意_ニ歟、何為々々、

二〇 春記 脱漏 長曆四年十月十六日戊戌

一日但馬守章信送_ニ小物、依_レ請也、長綱五疋給_ニ
凡綱廿疋也、先日送_ニ小物、非_ニ無_ニ芳心_ニ也、万事可_ニ補
綴_ニ之由有_ニ約束_ニ、是本章也、

二一 春記 脱漏 長久二年二月二十四日癸卯

天晴、龍頭可_レ作_ニ木尺三寸木五尺許_ニ也、即以_ニ但馬木
屋木_ニ送_ニ定朝_ニ了、又繪樣事同令_ニ書送_ニ了、八幡舞裝
束六具持來、頗宜之、祇園舞裝束可_ニ遣取_ニ仰_ニ久方_ニ了、
他雜事等皆仰了、

二二 百鍊抄 寛德元年七月二十七日

諸卿定_ニ申但馬國唐人來著事、

二三 百鍊抄 寛德元年八月六日

以_ニ散位 中原長國・民部丞藤原行任等_ニ但馬介掾_ニ
為_ニ存_ニ問宋客_ニ也、

二四 扶桑略記 卷廿八 (寛德元)
後朱雀 長久五年八月七日丙申

前大隅守中原長國任_ニ但馬介_ニ、民部少丞藤原生行任_ニ掾_ニ
為_ニ令_ニ存_ニ問太宋國商客張守隆漂_ニ着彼國岸_ニ也、而國

司源朝臣章任不_レ經_ニ案内、先以存問、仍停_ニ釐務_ニ不_レ赴_ニ任所_一

諸卿定_ニ申但馬国唐人張守隆等愁申守_{（源）}章任朝臣押_ニ領雜物一事_二

二〇五 続本朝往生伝

但馬守源章任朝臣者、近江守高雅朝臣之第二子也、母從三位藤原基子、御一条院御乳母也、自少年時_ニ盛会風雲_ニ補_ニ夕郎_ニ預_ニ榮爵_ニ、歷_ニ近衛少将右馬頭_ニ、吏_ニ於四箇國_ニ、美作_・丹波_・家大豪富、財貨盈_ニ藏_ニ、米穀敷_ニ地_ニ、庄園家地布_ニ滿天下_ニ、本朝之陶朱倚頤也、日々読_ニ阿弥陀經四十九卷_ニ為_ニ後生之勤_ニ、不_レ建_ニ堂塔_ニ、不_レ弘_ニ仏事_ニ、性太拘惜_ニ、為_ニ刺史_ニ時、以貪為_レ先_ニ、而臨終正念得_ニ極樂迎_ニ、爰知不_ニ必依_ニ今生業_ニ、可_レ謂宿善_ニ

二〇六 百鍊抄 寛德元年八月十一日

諸卿定_ニ申但馬国宋客廻却事_一

二〇七 百鍊抄 寛德二年八月十日

二〇八 造興福寺記 永承二年正月二十二日

（前略）

造興福寺

金堂（中略）

經藏（中略）

僧房（中略）

南大門（但馬・備前・備後

永承二年正月廿二日
已上各一間

二〇九 造興福寺記 永承二年十二月二十七日丁卯

陰雪、此日依_ニ御仏所申請_ニ、召_ニ雜物諸国_ニ、丹波掃炭二斗、播磨掃炭二斗、細美五段、備中掃炭二斗、美作掃炭二斗、伊予細美五段、讚岐掃炭二斗、周防掃炭二斗、但馬掃炭二斗、麻布卅段、

二〇 歴代皇記 卷一 後冷皇天皇裏書

法橋延殷

永承五年三月五日卒、八十三、去永承四年十二月廿六
日叙^ニ法橋、但馬国人、慈恩^(忽)僧正入室、内供奉惣持寺
阿闍梨、

○延殷法橋は、古代では数少ない但馬出身の僧である。そ
の伝記は『元亨糸書』卷五・『明匠略伝』日本下などに

もみえる。

分送文也、

(中略)

別院

(中略)

一 但馬國河會寺

一 同國額全寺 字^ニ削寺、

(後略)

二二 藏人所牒

治曆元年九月一日 「朝野群載」卷五 朝儀下

藏人所 国々

応^ニ早速交^ニ易進上^ニ鴨頭草移上紙墨等二支

「門葉記」卷一四〇 雜決一

二一 妙香院莊園目録 康平六年五月二十日

◎妙香院莊園目録

十一箇所事、
康平六年五月二十日注^ニ之、

(中略)

一 但馬国大浜庄

(中略)

已上十一箇所載^(藤原師輔)九条右府之應和元年六月五日御処牒、件ノ鴨頭草移等、為^レ充^ニ東對御簾用途料、所^レ仰
如^レ件、國宜^ニ知^レ状差^ニ副綱丁於使者、早速交易、依^レ數

進上、用途有_レ限、不_レ得_ニ延怠、牒到准_レ状、故牒、

已及_ニ數十日_ニ云々、

治暦元年九月一日

(教通)

出納左京屬紀朝臣政輔

別當左大臣兼皇太弟傳藤原朝臣

(泰憲)

藏人左少弁藤原朝臣

頭造興福寺長官左中弁近江權介藤原朝臣

(泰憲)

蔭子平

權左中弁源朝臣

三三 參天台五台山記 第一 延久四年三月二十二日壬寅

天晴、良風大吹、唐人為_ニ悅、中心思之_ニ遍呪力也、其

由示_ニ抄割了_ニ、林臯告云、辛林廿郎、昨日未時入_ニ唐海_ニ了、

以_ニ繩結_ニ鉛入_ニ海底_ニ時、日本海深五十尋、底有_ニ石砂、

唐海三十尋、底無_ニ石有_ニ沼、右昨日量了者住_ニ室內_ニ間

不_レ見_ニ斤量_ニ者、林臯但馬唐人林養子也、予見_ニ四方_ニ

無_ニ山無_ニ際、三人猶醉臥、終日竟夜、飛_ニ帆馳_ニ船、數

万念誦敢無_ニ間断、今日浜雀_ニ來_ニ船中_ニ、如_ニ巡礼記、

三五 為房卿記 承暦三年正月九日己卯条
(頭書)
『但馬守隆方朝臣承暦二年十二月卒去也、』
供_ニ養等身弥陀仏・法花經_ニ依_ニ、為_ニ三七日_ニ也、毎度之勤也、

○但馬守隆方が任国で死去し、姿態も声も似た弟の僧を身代わりに輿に乗せ、遺体を辛櫻に入れて運び、攝津国羽東舡の六瀬に埋葬した記事が『古事談』第二にみえる。

三六 為房卿記 応徳元年八月二十五日壬辰

(前略)

臨_ニ深更_ニ、小舎人時限到来、与_ニ酒肴_ニ、小謝遣畢、

但馬小舎人國綱五疋須給_ニ疋綱也、
所下部手作布三段須給_ニ麻布_ニ也、

三四 水左記

承保四年九月十三日庚申

後聞、此日但馬守源高房朝臣卒去云々、炮瘡之後病病

三七 賀茂社古代庄園御厨 寛治四年七月十三日

東大史料編纂所藏写本

日供料

庄園十九箇所

御厨九箇所

寛治四年七月十三日、賀茂御祖社被_レ奉_ニ不輪田七百四

十五町、為_ニ御供田、近日依_レ有_ニ夢想_ニ被_レ供_ニ御膳_ニ也、

且是依_ニ神税不足_ニ也、又分_ニ置御厨於諸國、俗諺曰、

將_レ亡聽_ニ政於神_ニ此謂也、

官符

(中略)

但馬國土野庄

田地五十町

(中略)

右依_レ有_ニ託宣_ニ自_ニ寛治三年_ニ漸有_ニ御沙汰_ニ或社司經_ニ
奏聞_ニ或公家召_ニ注文_ニ件日被_ニ始進_ニ云々、

(後略)

○出石郡土野莊に關する數少ない史料である。

二八 後二条師通記 寛治六年十一月二日辛巳

秉燭之後、史奏_ニ奉獻_ニ之者也、伊勢・安房・但馬、代
初官奏_ニ昨今所_レ被_レ行_ニ左大臣・頭力權弁季仲・史為実、

三九 除目大間書 寛治八年二月二十二日

「柳原家記録」所收

大間書

(前略)

但馬國

權介從五位下源朝臣家定兼、

大掾從七位上豊原宿祢吉方權中納言藤原朝臣、依_ニ永保、
二年獻_ニ五節舞娘_ニ二合所_レ任、
大掾正六位上大江朝臣友安院舉、
大目從七位上中原朝臣久友無品襟子内親、
王寬治五年給、
少目從七位上秦宿祢石國右大臣承
保元年給、

(中略)

寛治八年二月廿二日

三〇 後二条師通記 嘉保三年十一月十六日壬寅

晴、興福寺金堂一間事、丹波所課已以相違、就_ニ本国_ニ可_ニ勤仕_ニ歟、但加賀者法勝寺塔造作之間、他勤所_ニ免除_ニ也、但充_ニ但馬_ニ可_ニ勤仕_ニ歟、以_ニ此旨_ニ令_レ申_ニ合殿_ニ之處、左大弁帰云、公卿可_レ被_ニ相間_ニ、各以_ニ返事_ニ云、_(藤原季仲)被_レ除_ニ丹波_ニ可_レ充_ニ但馬_ニ、以_ニ此趣_ニ早可_レ申也、仰_ニ長官_ニ弁_レ下知云々、_(中略)

三一 中右記

永長元年十二月二十二日

○嘉保三年十二月十七日、永長と改元。

事了參内、參御直廬_ニ内_ニ覽文三通、_ニ雲・但馬次參_ニ御前奏、入_レ夜退出、

三二 後二条師通記

永長元年十二月二十九日乙酉

裏書、造興福寺但馬守_ニ隆時_ニ金堂所課辭申、播磨守_ニ顯季_ニ件所課辭申、周防守経忠返書不_レ賜、其故造興福寺瓦作料請文不_レ献、近江守隆宗年預辭申、

参殿_ニ下_ニ大原野神馬使被_レ立之間也、其次付_ニ行家朝臣_ニ令_レ申_ニ事、為_ニ役夫工使_ニ成_ニ濫行_ニ輩、依_ニ前日仰_ニ尋_ニ問明法博士範政_ニ之處、申云、但馬国太田庄住人、美乃国米田庄住人、信濃国住人、已上為_ニ盜犯致害事_ニ不可_レ会_レ赦、攝津国六車庄住人事可_レ会_レ赦者、仰_ニ云、_(藤原師通)三ヶ国住人事早令_ニ檢非違使勘問_ニ、至_ニ六車庄住人_ニ者可_ニ原免_ニ者、

三四 中右記

永長二年二月十日乙未

為_ニ行幸_ニ一点_ニ地、可_レ下_ニ向南京_ニ也、_(中略)并明日春日祭分配也、

路次作次第、

新司勤_レ之、_(中略)但馬、從_ニ八幡御領畠市_ニ、_(中略)至_ニ薙集寺大門南河岸、_(中略)

三五 中右記

永長二年二月六日

行事所召物、今年得替國前司勤^レ之、但至^ニ道作^一者新

司勤^レ之也、(後略)

(中略)

諸國所課

三五 中右記

永長二年三月十四日

但馬、被物
二重、
(後略)

未時許參^ニ殿下一付^ニ說長^ニ内^ニ覽文^ニ、造宮使申^ニ新宮垣丈

(出石郡)

尺事、檢非違使問注但馬國太田庄濫行事、前出雲守重

仲申神民非法事、又仰辭在^ニ別紙^ニ

六車庄事人々申旨、

攝津國所^レ渋庄事、

(藤原師惠)

次參内奏^ニ聞件三通文^ニ

(大殿者)

(中略)

三六 中右記 永長二年八月三十日壬寅

今夜除目之中、以^ニ因幡守正盛^ニ遷^ニ任但馬守^ニ、并以^ニ男
盛康^ニ任^ニ右衛門尉^ニ、以^ニ平盛良^ニ任^ニ左兵衛尉^ニ、是追討
惡人義親^ニ之賞也、彼身雖^レ未^ニ上洛^ニ、先有^ニ此賞^ニ也、件
賞雖^レ可^レ然^ニ、正盛最下品者、被^レ任^ニ第一國^ニ、依^ニ殊寵^ニ

又但馬守^ニ任^ニ右衛門尉^ニ、以^ニ平盛良^ニ任^ニ左兵衛尉^ニ、是追討
(藤原)
朝臣供^ニ養白河堂^ニ云々、

三七 中右記

嘉承元年十一月九日

受領被^レ任次第、
(中略)

天晴、早旦出^ニ南京^ニ、晚頭着淀^ニ、奈良坂并淀作法給祿、
皆存^ニ旧規、

但馬守平正盛^ニ任^ニ右衛門尉^ニ、以^ニ平盛良^ニ任^ニ左兵衛尉^ニ、
元因幡守、依^ニ追討惡人源義親^ニ遷任也、雖^ニ
中^ニ未^ニ上洛^ニ前也、依^ニ候院北面^ニ也、

(中略)

受領挙如_レ例、除目了、除目叙位成_レ束、入_ミ同宮_ミ進覧、其後成_ミ残申文等_ニ進上了、起_レ座退帰者、又但馬守平正盛、追討犯人_ニ義親_ミ賞_ミ付如_レ此、是康平之間、頼義任_ミ伊与守_ニ時、□_ミ討_ミ俘囚_ニ者、是其例也、

三九 殿曆

嘉承三年正月二十九日庚辰

今日但馬守正盛隨_ミ身義親首_ニ入京、仍陣頭上達部一両參入、別當能美治部卿_ニ藤宰相顯実、次第事了、人々退_ミ宿所方_ニ檢非違使等來云、河原ニ可_ミ罷向_ニ、仍職事由_レ之、余聞了、

降人一人騎馬相具、次郎等百人、郎從百人許、劍戟耀目、弓馬連_レ道、其路從_ミ九条_ニ東行、於_ミ七条末河原、檢非違使等受取、經_ミ七条大路_ニ西行、昇自_ミ西大宮_ニ行_レ、昇自_カ西大宮_ニ路_ニ懸_ミ首於西獄門樹_ニ、

(中略)

義親者、是故義家朝臣男也、先年成_ミ六位國功、任_ミ對

馬守_ニ在任之間、致_ミ害人民_ニ推_ミ取公物_ニ匡房卿為_ミ大武_ニ之時、濫惡千万之由進_ミ府解_ニ、仍_レ流隱岐国_ニ、而越_ミ來出雲國_ニ、又以成_ミ惡行_ニ去年致_ミ國司家保目代_ニ奪_ミ取官物_ニ、依_レ如_レ此惡事、催_ミ近境國々兵士_ニ令_ミ因幡守正盛追討_ニ之由、被_レ下_ミ宣旨_ニ了、依_レ切_ミ彼首_ニ、正盛遷_ミ任但馬守_ニ、故義家朝臣年來為_ミ武士長者_ニ多致_ミ無罪人_ニ云々、積惡之余、遂及_ミ子孫_ニ歟、未_レ聞_ミ本在京都_ニ身仕_ミ朝家_ニ子孫及_ミ如此罪_ニ、義親曝_ミ骨於山野之外_ニ、懸_ミ首於獄門之前_ニ、後惡之者見_レ之可_レ恐歟、

天晴、今日但馬守正盛隨_ミ身源義親首_ニ入洛、仍密々為_ミ見物候_ミ女車_ニ、午時許行_ニ向先正盛宿久我辺_ニ、経_ミ鳥羽殿_ニ、覽_ミ之_ニ、於_ミ鳥羽作路邊_ニ窺見_ニ、首指_ミ梓令_レ持_ミ下人五人_ニ、各付_ミ赤比礼_ニ書_レ名_ニ、賊首源義_ニ、又_レ其左右取_ミ打物_ニ歩兵着_ミ甲冑_ニ者四五十人許相從_ニ、次但馬守正盛、次男

三 百鍊抄

(嘉承三年) 天仁元年正月二十九日

○嘉承三年八月三日、天仁と改元。

但馬守正盛隨身源義親并郎從四人首參洛、廷尉於川原_ニ請取、義親去年配流隱岐國_ニ而留出雲國_ニ劫略人民_ヲ奪取官物_ヲ仍遣追討使_ヲ也、先_ノ之諸卿定申、任_ニ康平貞任之例_ヲ被_レ行_レ之、

三 中右記

嘉承三年四月十八日

今日依_ニ日次宜、遣_ニ五條券文於土佐守盛実朝臣・但馬守正盛許_ニ了、

(中略)

裏書 渡_ニ但馬_ニ地丈尺、

七戸主十六丈八尺、

三 江記

天仁元年十一月二十一日

(前略)

先国柄奏_ニ古風五成_一、其笛音頭以指似摩_ニ、次悠紀国奏_ニ國風四成_一、
其声似_ニ但主基丹波国奏_ニ早歌_一、次語部奏_ニ古詞_一、
神歌_ニ遲_ニ但主基丹波国奏_ニ早歌_一、次語部奏_ニ古詞_一、
出雲_ニ美濃_ニ但馬語部各奏_ニ之、
装束 小忌

三 殿曆

天永元年十月十二日丁未

今日除目也、但馬正盛_(平)・丹後家_ニ陳相博_ニ是依_ニ賀茂_ニ八幡御塔事_ニ、

三 中右記

永久二年九月三日

已時許向_ニ大夫君許_ニ、相具參_ニ鳥羽殿_ニ、數日御物忌問、
久不_レ參_ニ也、行重又相具_ニ、於_ニ殿上_ニ付_ニ宗実_ニ奏_ニ事_ニ、一

夜強盜同類一兩人擄取候了、令_ニ問之廻、丹波・但馬・
因幡・美作等国人卅人許同意所為也、入_ニ大江山_ニ取_ニ
分贓物_ヲ各歸_ニ本国_ニ了、件交名奏_ニ覽之_ニ、仰云、早可_ニ
尋沙汰_ニ、

三 中右記

永久二年九月二十六日

入レ夜明兼將ニ來但馬強盜三人、大略令レ問、不ニ承伏、

但臘物見在、可レ返ニ本主ニ之由仰了、

宣

年 月 日

三七 但馬初度国司府宣

「朝野群載」卷二二 諸國雜事上

初度
府宣 但馬國在府官人等

仰下雜事

一可レ勤ニ仕恒例神事

右國中之政、神事為レ先、專致ニ如在之敵奠、須レ期ニ
部内之豐稔、一境殷富、乃貢易レ備、百姓安堵、資用

已足者、

一可レ修ニ固池溝堰堤事

右農務之要、尤在ニ池溝、宜ド下ニ知諸郡、早致申修固上

一可ニ同令ノ注ニ進一所目代并郡司・別符司等ニ事
右為レ令ニ尋沙汰、早可レ注ニ申之、

一右ニ同令ノ注ニ進当年田數并国内起請田農料ニ之事
右國中之政、農料為レ先、官物為レ宗、早注ニ委細ニ可

レ令ニ進上、兼可レ致ニ用意ニ之故也、

一可レ參ニ上在府官人等両三人ニ事

右國以レ民為レ本、民以レ農為レ先、然則乃貢之備、尤
在此事、早以勤行者、

以前条事、所レ宣如レ件、宜レ知ニ此状、依レ件行レ之、故

三八 但馬第二度国司府宣 元永二年十二月九日
「朝野群載」卷二二 諸國雜事上

第二度
府宣 在府官人事

仰下條書

一可レ令ノ注ニ進官物率法ニ事

右色々率徴ニ々可レ注ニ進之、

一可ニ同令ノ注ニ進一所目代并郡司・別符司等ニ事

右為レ令ニ尋沙汰、早可レ注ニ申之、

一右ニ同令ノ注ニ進当年田數并国内起請田農料ニ之事

右國中之政、農料為レ先、官物為レ宗、早注ニ委細ニ可

レ令ニ進上、兼可レ致ニ用意ニ之故也、

一可レ參ニ上在府官人等両三人ニ事

右為レ召ニ問先例國事、為レ宗之輩、可レ參ニ上之、

以前条事、所宣如件、在序官人等宜承知、依件行之、

元永元年十二月九日

右兵衛權佐兼大介藤原朝臣(忠隆)

三九 中右記部類 臨時仏事一 元永元年十二月十七日

諸寺供養

(中略)

同十七日、甲午、今日白河新御願寺供養也、名号三最勝

寺(中略)

次被仰勸賞、

(中略)

忠隆叙正五位下但馬守、造寺賞

歎、可憐々々、

西〇 永昌記 天治元年五月二十七日癸卯

院御祈事
天晴、賑給定也、先參院、束帶、不動像千体被供養

之、中尊
(藤原通季)丈六、中宮權大夫被奉_ニ國絵也、以僧正行尊

西一 中右記 大治二年正月十九日

為御導師(中略)以寬助大僧正被供養愛染王三
十体、三尺、但馬守(藤原伊通)忠隆奉造云々、

西二 中右記 大治四年閏七月十日丙辰

天晴、酉時許相具右少弁参内、右兵衛督一人被早
参(中略)也、此外全以無人、(中略)次給但馬鉤文、史覽
之、予仰云、奏、史称唯、

西三 永昌記 大治四年閏七月十日丙辰

夜半(鳥羽)太上天皇(通仁)第二親王薨逝、生年六歲、兩眼如盲、起

居不調、恒又苦惱、遂以飛去歟、日來病、近日及

赤痢(白門)、法皇御在世之日、渡御但馬守敦兼宅(藤原)、御乳母夫、年

來雖有万々御祈(鎮)、為不予以人、仍無御同宿之儀

西四 中右記 大治四年閏七月十一日丁巳

或人密語云、二宮去夜令薨給畢、御年六歲、名道仁(通仁)、

一 古代の出石

從_ニ降誕年_ニ御目不_ニ見給、坐_ニ但馬守敦兼朝臣宅_ニ也、強不_ニ風聞、世人不_レ知、

二四 長秋記

天承元年八月十四日戊寅

此間_(藤原頭領)頭弁召_ニ主典代通景_ニ仰云、但馬守有賢_(源)朝臣補_ニ院_(鳥羽)

別當_ニ云々、

二五 長秋記 長承二年九月九日庚申

各退出後、予婦_(源師時)着陣_ニ（中略）予遷_ニ外座_ニ召_ニ外記_ニ問_ニ

諸司具否_ニ、申_ニ皆候_ニ、重仰云、官符三枚入_レ宮進_ニ、是日

向國司籤符、但馬國郡司文_ニ通、件郡司文預不_レ触_ニ子

細_ニ外記所為頗不_ニ穩便_ニ、然而不_レ謂_ニ左右_ニ見畢返給、

仰云、可_ニ内覽_ニ者、外記云、密々内覽已了者、是近代

作法歟、又雖_ニ可_レ咎、及_ニ深更_ニ之上、為_レ身依_ニ吉事_ニ莫

レ言、

二六 長秋記 長承二年九月二十一日壬申

晴、除目、權中納言伊通、元從三位、參議右兵衛督_ニ但馬守隆季、甲斐守、

_{有賢朝子}、辭_ニ但馬_ニ任_レ子也、

二七 台記別記 久安五年十月二十五日癸酉

宛_ニ催入内諸国所課、

諸国所課、久安五年十月廿五日、催_レ之、

（中略）

一女裝束十三具_(織物・唐衣・裳・濃袴)

美濃 尾張

但馬 加賀

参河 武藏

已上各二具、

若狹一具、

二八 本朝世紀 第卅九

仁平元年正月二十六日戊戌

權大納言宗能_ニ仰_ニ左中弁師能朝臣_ニ云、諸卿定申、近江・但馬・伯耆・播磨・備前・備中・安芸・淡路・阿

波・讚岐・土左等国司申、依_二失損_一被_レ免除_二去年濟物_一
 事、除_二神社仏寺永宣旨物・内藏寮御服并紅花・大炊
 寮年料米・主殿寮油等_二外、至_二年料率分_一者、免_三分
 之一_一院宮濟物諸司納所宜_レ令_二半減_一者、

長吏以下寺司、三綱所司、有_二帷紙等_一、
 任_レ例付_二寺家_一了、
 美紙千二百帖、

備中・備後・丹波・但馬、各_三百帖、

(中略)

匱 台記別記 仁平元年八月十一日戊寅
 十一日、

(中略)

(中略)

兩日祿、

織物掛一重、尾張、

大掛四重、一重尾張、三重讚岐、

掛廿六領、越後六領、遠江・能登・但馬・土佐

各五領、

(中略)

但馬國申請被_レ給_二鈎匙_一開_二檢不動倉_一、奏、

少外記三善信成申請馬料唐櫛捌合事、依_レ請、

右大史中原為弘、

今朝右大史中原為弘持_二參_一昨日陣申文目錄、
 保元二年八月四日陣申文 権右中弁、

二一 兵範記 保元二年八月五日戊戌

三〇 兵範記 保元二年七月十五日戊寅

午剋、參_二法成寺_一、依_二自恣行事_一也、(中略)

大納言殿御覽畢、留_二御所_一、次史退出、

二三 官宣旨 保元三年十二月三日

平安遺文 六ノ二九五五号
『石清水文書』

左弁官下 石清水八幡宮并宿院極樂寺

應永停止宮寺并極樂寺庄園領家預所下司公文等、
或号有先祖讓狀、或称相伝文書、致異論企掠
領、兼又有由緒、雖令伝領、子孫斷絕處々付本
所事

宮寺領

(中略)

但馬國

菅庄 安良別宮 伊福別宮 亀別宮 枝別宮
勝樂寺別宮 宮尾別宮 能次別宮

(中略)

右得彼宮寺別當兼極樂寺院主法印勝清去月十一日解
状、謹檢案内、宮寺并極樂寺領庄園別宮等者、或
勅免官省符之地、或雖為御封会料米便補、数代国司

奉免之上、又各被下宣旨、所知行來也、仍當時別
當院主知行之庄保別宮等、載于状、右所注進也、此
外先師檢校權大僧都光清注載存生間可知行由、
(鳥羽院女房) 分女子美濃局之庄園并僧俗所司等以下輩、相伝領掌
之神領、雖有其數、不能注載、抑代代別當院主、
以住古宮寺領、恣行处分之間、為其門徒妻子眷屬
之者、或掠籠文書、称相伝由、或号有讓狀、猥企
異論、無止神事動及違例、有限御領徒屬他家、神
慮難測、狼戾無極、當時惣官任先例致沙汰之時、
追返使者、遁避所当、是則代代別當不分附文書之間、
傳取其文書之輩、所全如比之奸濫也、奪
人力為己功、猶處之奸濫、況掠神領屬他家、豈又
非重科乎、當時向後、旁招人謗、外証內鑑、非無
其恐、就中近來無分附之文書、後日或称有証文、
或号相伝付屬、異論之輩多出來歟、云領家預所、云
下司公文、向後於有讓狀并称相伝輩者、永隨
停止、兼又有由緒、知行宮寺庄園并別院之者、已有

其数、件輩中於三子孫、斷絕絶歟者、早可レ付ニ本所ニ之

由、同欲レ被ニ宣下、是非レ思ニ當時惣官之利潤、偏為

レ存ニ将来宮寺之繁昌也、望請天裁、被ニ宣旨、件庄

庄永為ニ別當院主沙汰、被ニ停止、私之处分者、弥専ニ神

事如在之礼奠、奉ニ祈ニ國家泰平之御願ニ者、權中納言藤

原朝臣雅教宣、奉ニ勅、依ニ請者、宜ニ承知、依ニ宣行

之、

保元三年十二月三日 大史小槻宿祢 (花押)

中弁源朝臣 (雅頼)
(花押)

(奥書)
「自ニ先師別當御房 相伝、

權少僧都 (宗清)
(花押)」

一応ニ任ニ式条ニ令ニ勤ニ行年中諸祭ニ事

右左大臣宣、奉ニ勅、國之大事莫ニ過ニ祭祀ニ因ニ茲諸

國調庸貢進之日、惣ニ計年中祭物之數、可ニ納ニ別藏ニ

勒ニ其事状ニ載ニ延長四年五月廿七日符ニ而近年緣ニ事

所司積習、常例毎事怠慢、礼奠之庭專背ニ如在ニ供祭

之者多非ニ本色、敬神之道可ニ其然ニ乎、就ニ中祈年祭

者、京官・外國相分、所奠之神三千余座也、事繁日

迫、令ニ闕ニ神供ニ云々、自ニ今以後先祭卅箇日、下ニ知

諸司ニ任ニ式勤行者、

一応ニ如ニ法勤ニ修年中諸仏事等ニ事

(朝來郡)
伊由御庄申請政所御 (下カ)
文事、後不レ及ニ諱譁ニ者、相計
天可ニ下給ニ候云々、
(義父郡)
輕部郷事、可レ被ニ尋ニ請 (文カ)
候歟者、仰旨如ニ此、謹言、

王五月七日 散位惟宗康 (弘カ)

進上 少納言殿

太政官符山陰道諸国司
『壬生家文書』七ノ一九六九号 平安遺文 八ノ三八五二号

太政官符山陰道諸国司

雜事拾式箇条

三 惟宗康弘奉書 (平治元年) 王五月七日

兵範記裏文書 平安遺文六ノ二九八〇号

伊由御庄申請政所御 (下カ)
文事、後不レ及ニ諱譁ニ者、相計

天可ニ下給ニ候云々、
(文カ)
輕部郷事、可レ被ニ尋ニ請 (文カ)
候歟者、仰旨如ニ此、謹言、

右同宣、奉、勅、年中仏事皆是往聖之洪化也、後代

明王承成此願、乾坤致福云々、就中八省御齋会者、

君臣之道与天地共久、累世之政与日月争明之御

願也、而時^{屬遷}季、人少信心、施供之物每色不法、

敵重大会何致疎漏乎、自今以後、行事官等先会

一月、下知諸司、任式勤修者、

一応停止五節櫛棚金銀風流并滝口送物過差一事

右同宣、奉、勅、禁驕、節儉者、明王之善政也、

件等過差悉可停止者、

一応禁制六斎日斂生事

右同宣、奉、勅、禁斷致生、嚴制重曇、違犯之科

格条已明、而今如聞、遊手浮食之輩、多當彼日

殊成此犯云々、内破仏戒、外忘皇憲、重加下

知、懲令禁断者、

一応令營築鴨河堤事

右同宣、奉、勅、防河事、置可行之官、定可勤

之国、而近年各無其勤、殆失基趾云々、懲令催

行者、

一応停止諸國濟物老年中令責催老任所当一事

右同宣、奉、勅、諸國調庸參期有限、而諸司猥寄

少分公用、責催數百之納物、計一年之所當過四

廻之租^{謂諸賦}、國之衰弊尤在此事、任久安・保元符、

下知諸司、早令停止

一応同停止私出拳利過三倍一事

右同宣、奉、勅、出拳私物、格制殊重、況於非法

利乎、而貧弊之民被責窮困、竊以借用、返償之間、悉盡資財云々、如斯之類、縱出契狀、雖

經多年、一倍之外可停止非法者、

一応令有封社司并諸寺別當修造本社本寺一事

右保元二年十月八日符云、修造之勤載在格条、隨

破且修、何致大損、而諸司社寺官長、徒貪所領田

園之利潤、不顧本所舍屋之破壞、頽毀之後、初經

奏聞、申請別功、致其造營、論之朝章、理不可然、懲令本社・本寺・本司等勤其修造、若背符

旨、尚致解緩、解却見任、永不叙用、其中顛倒無実、及大破等、私力難及者、各勒在状不日言上者、同宣、奉勅、任彼符、憲令遵行者、

一応憲擧進陸海盜賊放火輩事

右同宣、奉勅、近年盜賊之類、結党成群、充満都鄙、敎害人民、放火家宅、就中近日所犯、

連夜不絶、宜下知諸國、隣里与力擧進其身上者、

一応同擧進諸社神人諸寺惡僧往反國中致濫行事

右同宣、奉勅、近年諸社神人・諸寺惡僧、或橫

行京中、決斷訴訟、或發向諸國、侵奪田地、就中

延暦・興福兩寺惡僧・熊野山先達・日吉社神人等殊

以蜂起、同下知諸國、憲令擧進其身者、

一応停止諸國人民以私領寄与神人惡僧等事

右同宣、奉勅、諸國人民以公田称私領寄与神人惡僧等云々、國之滅亡、無大於斯、且任先

符悉令停止者、

一応擧禁勾^(拘)引諸人奴婢壳^(賣)買人輩事

右同宣、奉勅、如聞、勾引諸人之奴婢、壳買要人之輩、充滿京畿云々、結構之旨、罪科不輕、宜令諸国擧禁件輩者、

以前条事如件、諸国承知、依宣行之、符到奉行、

正四位下行左中弁兼紀伊權守藤原朝臣(重方)（花押影）
修理左宮城判官正五位下行左大史兼播磨介小櫻宿祢(隆職)（花押影）

○「統左丞抄」第二にも同文がある。

治承二年七月十八日

三 玉葉 治承五年六月十五日庚申

(前略)

治承五年六月十五日 宣旨

陰陽寮^(申)可^(被)造^(ニ)興福寺^(ノ)雜事日時事

(中略)

可^(レ)造^(ニ)興福寺^(ノ)國々、
金堂、

近江・丹波・播磨・美作・備中・讃岐・伊予、

(藤原基通、
内大臣)

已上、各一間、但東西妻、近江・播磨、

廻廊五十間、

攝津・甲斐・信濃・上野・若狭・能登・加賀・越

中・越後・出雲・筑後・肥前、

已上、各四間、但加賀・越後、五間、

僧房、

尾張・参河・美濃・丹後・因幡・伯耆・安芸・土

佐・筑前・肥後、

已上、各十一國、

経藏、

淡路・伊賀・越前、

鐘樓、

和泉・隱岐、

中門一宇、

但馬、

此外、講堂・南円堂・南大門、

三
後白河院下文案

元暦元年四月 日

『高山寺文書』
平安遣文 八ノ四一六六号

〔後白河院下文案
季広停廢事〕

院下 蓮華王院領但馬国温泉庄官等

可_レ早停止平季広・同男季長濫行・糾_レ返追捕取御
年貢以下御米并在家人等資財雜物、停_レ廢当庄地頭
職、追_レ却其身上事

副下損物注文_レ通

右得_レ彼庄官等今月日解状_レ備、謹檢_レ案内、當御庄
去長寛年中領家法橋聖顯、募_レ僧綱功_レ令_レ造進鐘樓一
宇_レ畢、而相_レ博件功_レ所_レ被_レ庄号_レ也、御願寺之領雖
有_レ其數、以_レ成功_レ被_レ庄号_レ事者、其例是少也、然則

雖為同庄領、豈以不可准他所歟、隨亦任下府御下文狀、御使國使相共被打定榜示畢、爰季広依為地頭、雖補任下司職、於事不当、於庄損害、仍加其誠之處、季広申云、自業自得果之道理也、全不可存勘氣之由也、自今以後、若為領家不可致損害事、速仰神判可書進再文云云、其状稱、温泉御庄本領主平季広解申進起請事、右依為地主補下司職畢、奉為領家致塵之非常、若者惡言奇恠、兼又背領家御下知、令忽諸仰旨者、奉始王城鎮守諸大明神日本朝中大少神祇罰季広身可罷蒙也、仍起請如件、治承四年卯月十二日平季広在判也、如此依令申、即為下司職、雖引募數町給田、無支一分寺役、至今于斯上者、依何事之不足、忽可停廢領家哉、而去年十二月俄相語謀叛之義仲、即称件領之由、於途中押取運上御年貢以下雜物等、追捕庄庫、運取所納御米等、所損亡庄内也、仍訴申寺家之日、停止季広狼藉、可糾返上件物等之由、

雖被成下寺家并義仲下文、季広一切不承引之、重又依訴申、尚以被成下文之条、已及二箇度畢、共忘承伏之儀、遂以令押取之畢、以世間狼藉之折節、令滅亡有限御領之条、必非令違背領家一偏是令慶如御勢之基也、如祭此之輩、無其誠人、向後之狼藉、不可断絕事歟、是師子之中虫也、以世間不落居折節、為季広之吉慶、令損亡御庄之条、不始于今度、前平家之時、以如比也、就中雖為途中、於領家者企歎害、可為塵灰之由、致結構詞、動相語謀叛之輩、縱雖令覆藏奸心之者、非無恨畏歟、何況於令露顯乎、若御裁許及遲怠者、又語付當時權門之武士、猶令致濫行歟、仍次第証文等、所副進也、雖不憚人倫、爭不恐神判乎、以之万事可垂賢察一事歟、望請恩裁、早注文旨、令糾返件雜物等、兼又被禁獄件季広同男季長等身也、於同子孫者、永可停止地頭下司職之由、成賜序御下文、將令安堵御庄内、欲

レ備向後之龟鏡レ矣者、如ニ解状ニ者、彼季広等為ニ庄官ニ
滅ニ亡庄内ニ、猥追ニ捕在家ニ、打ニ開庄庫ニ、搜ニ取御年貢以
下資財物ニ之条、罰科不レ輕、且任レ數紀ニ返件損物、先
停ニ止地頭職ニ、可レ追ニ却庄内ニ也、若猶企ニ濫行ニ者、早
召ニ上其身ニ、可レ被ニ行罪科ニ之状、所レ仰如レ件、庄官等

宜ニ承知ニ、敢不レ可ニ違失ニ、故下ニ、

元暦元年四月 日

三七 執政所抄 保安二年以前

(前略)

十五日七月、法成寺孟蘭盆講事、

諸国召物、

(中略)

上品弘紙、

備中三百帖、丹波三百帖、

但馬三百帖、備後二百帖、

件布紙彼國之例進ニ也、國徵ニ下郡鄉ニ所濟ニ、且千手六月

下旬之比、行事下家司、以ニ例文ニ申成召ニ下文ニ下ニ知

之、近代仰ニ給御教書ニ歟、催納之間、七八日之比、於

レ布者行事所司請取裁ニ而、次小舎人等令ニ諸大夫ニ縫ニ

健ニ、当日早旦令ニ催ニ進御寺行事所ニ於ニ紙者、當日
以ニ僧名ニ所司催ニ諸司官人等、令ニ調ニ積ニ之、行事下家

八五・三三八六、九ノ四八一一・四八七六号など) ので
参照されたい。

『続群書類從』

左近衛權中將源朝臣在判

○温泉荘は今湯村温泉で二万郡に属した。出石郡内に適
当な事例がないので掲出した。温泉荘の史料は高山寺文
書に数通ある(平安遺文七ノ三三五一・三三五二・三三

司・出納分行之、藏人所雜仕女、預納平裏帷等也、

三六 新猿樂記

四郎君受領郎等判史執鞭之図也、於五畿七道無所不届、於六十余国無所不見、(中略)仍得万民追従、宅常瞻、集諸國土産、貯甚豐也、所謂阿波絹・越前綿・美濃八丈柿・常陸綾・紀伊国縫・甲斐班布・石見紬・但馬紙・淡路墨・和泉櫛・播磨針・備中刀・伊予手笞・簾又砥又・出雲筵・讚岐円座・上総鞆・武藏鑑・能登釜・河内鍋・喰・安芸榎・備後鉄・長門牛・陸奥駒又・信濃梨子・丹波栗・尾張炬・近江鮒・若狭椎子・餅・越後鮭・漆・備前海糠・周防鯛・伊勢鯛・隱岐鮑・山城茄子・大和瓜・丹後和布・飛驒餅・鎮西米等、如レ此贊菓子輒々継々踵、済々成市云々、

○但馬は紙を名産とした。紙のほかには目立つた特産品がなかつたともいえる。

5 古代の社寺

三九 延喜式 神祇十
卷第十 神祇十

但馬国一百卅一座大十八座小一百十三座
朝来郡九座大一座小八座

粟鹿神社名神

(中略)

養父郡卅座大三座

夜夫坐神社五座小三座

水谷神社名神

宇留波神社

(中略)

出石郡廿三座大九座

伊豆志坐神社八座並大

桐野神社

須流神社

佐々伎神社

一 古代の出石

日出神社	ヒツノ
小野神社	ヒサノ
中嶋神社	ナカシマノ
阿牟加神社	アムカノ
石部神社	イシバノ
氣多郡廿一座	ヒタスヂクニトモ
小四十七座	コトナナシトモ

須義神社	スギノミコト
手谷神社	テタニ
物部神社	モノハラノ
穴目杵神社	アナメキノ
比遲神社	ヒタリ
大生部兵主神社	オホルヒタスミノミコト
小坂神社	オサカノ

城崎郡廿一座	キヨサキクニトモ
小廿一座	コトナナシトモ
久麻神社	クマノ
物部神社	モノハラノ
穴目杵神社	アナメキノ
与佐伎神社	ヨサキ
耳井神社	ミキ
小江神社	オカニ
兵主神社	ヒタスミノミコト
兵主神社二座	ヒタスミノミコトニトモ
久流比神社	クルヒ
深坂神社	フカサカノ
桃嶋神社	モモシマノ
久々比神社	ククヒ
布久比神社	ブクヒ

久麻神社	クマノ
物部神社	モノハラノ
穴目杵神社	アナメキノ
与佐伎神社	ヨサキ
耳井神社	ミキ
小江神社	オカニ
兵主神社	ヒタスミノミコト
兵主神社二座	ヒタスミノミコトニトモ
久流比神社	クルヒ
深坂神社	フカサカノ
桃嶋神社	モモシマノ
久々比神社	ククヒ
布久比神社	ブクヒ

(後略)

(中略)

東大寺 五千戸二千戸東西寺各千戸施入、

天平勝宝二年勅施

女帝御代

修理塔舎分千戸、伊賀百戸、

并常住僧分二千戸、官家修行諸仏事分二千戸、伊賀百戸、

尾張百五十戸、遠江五十戸、駿河百五十戸、

甲斐五十戸、相模百五十戸、上総百五十戸、伊豆五十戸、

常陸五十戸、近江百五十戸、美濃百戸、信乃二百五十戸、若狭

上乃四百五十戸、武藏四百五十戸、下野三百五十戸、

五十戸、越前五十戸、越中二百戸、越後百戸、佐渡百戸、

丹波百五十戸、丹後五十戸、但馬百五十戸、因幡五十戸、

石見百戸、播磨百五十戸、美作百戸、備前二百戸、備中百

五十戸、備後百五十戸、安芸五十戸、周防百戸、紀伊五百戸、

阿波百戸、讃岐百戸、

伊予百戸、土佐百戸、

三〇 新抄格勅符抄

新抄格勅符第十卷抄

神事諸家封戸 大同元年牒

神封部

合四千八百七十六戸

(中略)

忍坂神 三戸伊勢一戸

(中略)

出石神 十三戸但馬 養父神 四戸同

(中略)

粟鹿神 二戸但馬国

(中略)

一寺封部

(中略)

法隆寺 五百戸
戸五十
二百戸
模六十戸
上乃五十戸
(野之)
但馬天皇御代
但馬五十戸
播万相

三一 続日本紀

承和九年十月乙亥

三一 続日本紀

廣雲三年七月乙丑

(二十四日)

丹波・但馬二国山火(夷)遣使奉幣帛于神祇、即雷声忽
応、不撲自滅、

(後略)

但馬国氣多郡山神・雷神・戸神・蜀椒神、城崎郡海神

等五前、並預_三官社、

二三三 続日本後紀 承和十二年七月辛酉(十六日)

丹波国桑田郡无位出雲神、但馬国出石郡无位出石神、

養父郡无位養父神、朝來郡无位栗鹿神、美濃国厚見郡

无位伊奈波神等並奉_レ授_三從五位下、依_三國司等解狀_二也、

二四 日本三代実録 貞觀十年十二月二十七日丙戌

授_三但馬国從五位上出石神・粟鹿神並正五位下、從五

位下山神・戸神・雷・燭椒神・海神並從五位上、

二五 日本三代実録 貞觀十年閏十二月二十一日庚戌

但馬国正六位上大岡神・左長神・七美神・菅神・播磨

國正六位上射日埼神・土左國無位宗我神並從五位下、

二六 日本三代実録 貞觀十一年三月二十二日庚辰

但馬國從五位上養父神、(中略) 正五位下、

二七 日本三代実録 貞觀十六年三月十四日癸酉

但馬国正五位下出石神・養父神・禾鹿神並正五位上、

仁和元年二月十日丙申

授_三(中略) 但馬国正六位上絹卷神、(中略) 並從五位下、

二八 日本紀略 後篇六 貞元元年二月二十五日壬戌

今日、諸卿定申、但馬国言上、出石大社内烏鵲集会、
古老云、国内第一靈社也、烏雀蚊虻不_レ入云、仍有_二占

卜、

二九 扶桑略記 第廿八 長元八年十二月

十二月、但馬国八幡別宮司与_三國司_一、有_三鬭爭之愁、遣_二(原則理)

右少史高橋文俊推_三問其事、

二七 扶桑略記 第廿八 長曆元年閏四月八日

但馬守源則理与三八幡別宮司一有三鬪争事、公卿僉議之間、雷鳴霍降、

○同年五月廿日、前但馬守源則理、土佐国に配流、同十二月九日恩赦によつて召返さる記事あり。

二三 百鍊抄 第四 長曆元年閏四月八日

諸卿定申石清水別宮神人与三但馬守則理一鬪乱事、仗議之間、雷鳴霍降、

二三 行親記 長曆元年五月二十日

今日被^レ定明法博士等勘申前但馬守則理朝臣等罪名事一右大臣以下諸卿於^ニ左仗^一被^ニ定申^一書^ニ定文^一奏聞、^(藤原経輔)左大臣件事去長元八年、但馬在任之間、依^レ有^ニ官物負累^一左^一宿^ニ衆長令^レ申^ニ其弁^一間、籠^ニ停座^一衆長依^レ為^ニ八幡別官司^一□^一別當神人等為^ニ愁^ニ件事^一率^ニ数百人^一來^ニ國府近辺、即依^レ有^レ聞^ニ奪^ニ衆長^一並可^レ入^ニ亂館^一内^(脱アルカ)々造相防之門^一有^ニ中^ニ矢死亡之者^一因^レ之八幡宮以^ニ別

(後略)

当申旨^ニ有^ニ愁申^一國司又進^ニ國解^一仍彼年十二月、遣^ニ右少史高橋文俊^一令^レ推^ニ問彼此所^レ申^一即帰^ニ參日記等^一其後宮寺称^レ有^レ所^レ申^一仍於京^ニ推問、召^ニ遣在國司等^一之間、先帝有^ニ晏駕之事^一相次去年有^レ限大事等指令、^(後一条天皇)自以延引、今年三月召^ニ在國司等^一於^レ官被^ニ勘問^一任^ニ件日記等^ニ可^レ勘罪名^ニ由^一前日諸卿有^ニ定申^一仍令^ニ下^ニ勘罪名^一隨^ニ而法家進^ニ勘文^一又有^ニ可^ニ定申^ニ之宣旨^ム仍所^ニ定申^ニ也、勘申者十一人之中、被^レ處^ニ流罪^ニ者七人、可^ニ贖銅^ニ者并追可^レ被^ニ定仰^ニ者等等四人云々、抑^ニ可^ニ配

流^ニ之^ニ諸卿又可^ニ定申^ニ者、被^レ定^ニ申^ニ則理土左、相奉伊豆^{五位}、成任^{佐渡}^(今ニ佐渡)佐渡^{六位}、小野近則^{常陸}^(六位)、不知^レ姓重氏安房^{六位}、尾張忠親岐^{六位}、奏聞之後令^レ造^ニ官符^一并可^レ召^ニ仰撫非違使^ニ之由被^ニ召仰^ニ弁定親撫非違使等奉^レ宣後、各向^ニ流人處々^ニ先揭^ニ其身^一待^ニ件官符等^ニ下向云々、官人某丸可^レ向^ニ其所^ニ之由不^レ仰云々、

二四 神祇官諸社年貢注文 永万元年六月 日 (永万文書)

「宮内庁書陵部藏」平安遣文 七ノ三三五八号

神祇官御年貢進社 (重文書)

(中略)

但馬国

伊豆志社布五十端進、

水谷社上品紙五十帖進、

阿波鹿社正米沙汰、二百帖進、

已上三社正米賜_二下文_二了、

(中略)

右大略注進、如_レ件、

永万元年六月 日

二十五 昔物語集 於但馬國古寺毗沙門 伏牛頭鬼助僧語第二卷 (卷一七)

今昔、但馬ノ國ノ□ノ郡ノ□ノ郷ニ一ノ山寺有リ、起テ後、百余歲ヲ経リ、而ルニ、其ノ寺ニ鬼来リ住テ、

人久ク不寄付_レズ、
而_カ間、二人ノ僧有_{アリ}ケリ、道ヲ行_{カニ}、其ノ寺ノ側ヲ過ル間、日既ニ暮レス、僧等、案内ヲ不知ザル依テ、此ノ寺ニ寄テ宿リス、一人ノ僧ハ年シ若_{クシ}法花ノ持經者也、
今一人ノ僧ハ年老タル修行者也、夜ニ入バ、東西ニ床ノ有ルニ、各ノ居ス、夜半ニ成トナリスラム思フ程ニ、聞ケバ、壁ヲ穿テ入ル者有リ、其ノ香極テ臭シ、其ノ息、牛ノ鼻臭ヲ吹キ懸ルニ似タリ、然レド暗ケレ、其ノ体ヲバ何者ト不見ズ、既ニ入り來テ、若キ僧ニ懸カル、僧、大キニ恐_テ、怖レテ、心ヲ至シテ法花經ヲ誦シテ、助ケ給ヘト念ズ、
而ルニ、此ノ者、若キ僧ヲバ棄テ、老タル僧ノ方ニ寄ス、鬼、僧ヲ甌ミ刻テ忽ニ瞰フ、老僧_ヲ音ヲ拳テ大キニ叫ブト云ヘド、助タル人无クシ遂ニ被瞰ス、若キ僧ハ、老僧ヲ_ヲ不思_テ、仏壇ニ搔キ登テ、仏ノ御中ニ交テ、一ノ仏ノ御腰ヲ抱_テ、仏ヲ念ジ奉リ、經ヲ心ノ内ニ誦シテ、助ケ給ヘト念ズル時ニ、鬼、老僧ヲ既ニ食畢_テ、亦、若

キ僧ノ有ツル所へ来ル、僧、此レヲ聞クニ、東西思ユル
 事无クシオホテ、尚、心ノ内ニ法花経ヲ念ジ奉ル、
 而ル間、鬼、仏壇ノ前ヘニ倒レヌ倒ト聞ク、其ノ後、音モ不
 為ズシヤヌ止ス、僧ノ思ハク、此ハ、鬼ノ我ガ有リ所ヲ伺ヒ
 ラム思テ、音ヲ不為ズシ聞リト思ヘバ、弥ヨ息・音ヲ不
 立テ、只、仏ノ御腰ヲ抱キ奉テ、法華経ヲ念ジ奉テ、夜
 ノ曉ルヲ待ツ程ニ、多ノ年ヲ過スオボト思ユ、更ニ物不思エズ、
 辛クシ夜曉バ、先ヅ、我ガ抱キ奉レル仏ヲ見レバ、毗沙
 門天ニテ在マス、仏壇ノ前ヲ見レバ、牛ノ頭ナル鬼ヲ三
 段ニ切敏シテ置タリ、毗沙門天ノ持給ヘル鉢ノ崎ニ、赤
 キ血付タリ、然バ、僧、我ヲ助ケム為ニ、毗沙門天ノ差
 敏シ給ヘル也トケリ、思フニ、貴ク悲キ事无限シ、現ハニ知ヌ、
 此レ、法花ノ持者ヲ加護シ給フ故也ケリ、「令百由旬内
 无諸衰患」ノ御誓不違ズ、其ノ後、僧、人郷ニ走リ出テ、
 此ノ事ヲ人ニ告グレ、多人集行テ見レバ、実ニ僧ノ云フガ
 如シ、「此レ、希有ノ事也」ト、口々ニ云喧ル事无限シ、
 僧ハ、泣々ク毗沙門天ヲ礼拝シテ其所ヲ過ヌ、

其ノ後、其ノ国ノ守ノト云フ人、此ノ事ヲ聞テ、
 其ノ毗沙門天ヲ以テ奉テ、京ニ迎ヘ奉テ、本尊トシクヤウ
 シ恭敬シ奉ケリ、僧ハ弥ヨ法花経ヲ誦シテ、怠ル事无
 カリケリ語リ伝ヘタヤ、
 ○郡名郷名がなく、寺の名も不明である。